

「国際通り線シンボルロード整備事業」について

沖縄県 土木建築部 道路街路課
仲嶺 智

1. はじめに

沖縄県那覇市の国際通りについては、戦後の焼け野原からの復興のシンボリックな存在であり、昭和47年の日本本土復帰後は観光需要の高まりと相まって、国内外から訪れる観光客の観光スポットとしての役割とともに、週末はトランジットモールの実施など中心市街地の活性化にも寄与する活気に溢れた通りとなっている。

一方、沖縄県は戦後からモノレールの整備前まで、鉄道等の基幹交通がないことから、移動の際は車両に依存する割合が高く、特に那覇市は混雑時平均旅行速度が約17kmと三大都市圏より遅く、国内で最も交通渋滞が激しい地域となっており、その中心市街地にある国際通りについては、日当たり約17,000台（平成22年）もの車両が往来する箇所でもある。

このような社会情勢の変化の著しい中で国際通りの変遷をたどりながら、平成11年度から平成25年度まで実施した国際通り線シンボルロード整備事業を紹介することとする。



写真1 昭和30年頃の国際通り

2. 戦後の国際通りの整備

国際通りについては、那覇市の県庁北口交差点から安里三叉路までの約1.6kmの通りの名称であり、戦後の焼け野原からめざましい発展を遂げたこと、長さが1マイルであることから、「奇跡の1マイル」とも呼ばれ、戦後復興のシンボルとして多くの県民に親しまれた通りであった。

また、当時、道路沿いに「アーニー・パイル国際劇場」との映画館が存在したことから、映画館の名にちなんで「国際通り」との名称が定着することとなった。

戦後の国際通りの整備については、昭和27年から昭和29年にかけて琉球政府の前身となる沖縄群島政府が那覇市と協力し車道幅員10.8m、歩道幅員3.6mの両側で計18mで整備を行ったことから、現行の幅員はその当方で確保されることとなる。

3. 観光振興と交通悪化

昭和40年に国際通りは、市道から琉球政府道に位置づけられ、昭和47年の祖国復帰にともない県道となり、以後の整備・管理は沖縄県が行うこととなる。

昭和56年には、国際通りの観光需要の高まりに対応するため、車道幅員を狭め、歩道を3.6mから4mに改修工事を行ったことから、歩行空間の快適性が確保され沿道の土産店へのアクセスの向上が図られることとなった。



写真2 昭和60年頃の国際通り

一方、沖縄県の交通事情については、鉄道等の基幹交通が無いこともあり、車に依存する割合が高く、観光振興の発展とともに那覇市の都心部の交通事情は悪化することとなった。

特に、国際通りにおいては、交通量も多いことに加え、駐車帯が1.75mあることから停車する車両も多く、そのため慢性的な交通渋滞は日常茶飯事となり観光産業への悪影響が懸念されることとなった。

4. 整備方針

平成になると、国内からの観光客だけではなく、国外からの観光客も増えることとなり、特にアジア諸国からの観光客の増加も著しい伸びを示すようになってくる。

また、近年においては、郊外の大規模店舗の進出により中心市街地の空洞化が進んだため、那覇市は「中心市街地活性化基本計画」を策定し、国際通りやその周辺の活性化に取り組んでいるところであった。

そのような中、国際通りについては沖縄の新しい「顔」、風土に根ざした魅力ある「みち」を目指すこととし、「国際通り線シンボルロード整備事業」を立ち上げ、快適な歩道空間の創出を目的とし、歩道の拡幅、電線類の地中化、ポケットパークの整備を行い、あわせて市街地活性化を図り、豊かで活気ある街づくりを行うこととした。

(1) 道路の整備

通常、交通渋滞の緩和と快適な歩道空間の確保を考えると、沿線の用地買収を行い歩道の拡幅を行うところであるが、国際通りについては、沿線の賑わいが魅力の一つであることから、基本的に、用地買収は行わずに沿道の改善を図ることとした。

そのため、交通渋滞の原因のひとつに、停車する車両の存在があることから、駐車帯を1.75mから1mの路肩に狭めることとした。また、1mの路肩については、インターロッキングブロックで整備を行うこととし、視覚的に歩道空間の領域を広げる効果を図ることにより、停車する車両は減少し、交通渋滞は以前と比較し緩和されているところである。

なお、1mの路肩については、商店への搬出入車両が荷さばきをするため、停車しても本線の流れに影響が生じないように、通り会との協議の中で決定している。

(2) 歩道の整備

車道を0.75m狭めたことにより、歩道については4mから4.75mへ拡幅することができ、安心で快適な歩行空間は確保されることとなった。

また、国際通りについては、週末のトランジットモールの実施や夏の「一万人のエイサー踊り隊！」や10月の「那覇祭り」「首里城祭」等、各種イベントにも対応するため、歩車道を一体的に活用する必要から、歩車道の段差を5cmとしフラットタイプの歩車道境界ブロックを使用している。

ここで、歩道の修景については、沖縄の顔となる通りとして、古今東西さまざまな文化を吸収しながら発展してきた「チャンプルー文化」を体現するような場所であって欲しいとの要望があり、デザイン・コンセプトとして海（県庁側）から首里（安里側）へと至るストーリーを縦糸として、また個々の場所の故事来歴、花鳥風月、工芸、風俗などを横糸として、「一大絵巻物語」のデザインを考え、全長1.6kmを飽きずに歩かせるため、38街区毎に異なるパターンを配置した。



写真3 路肩のインターロッキングブロック



写真4 歩車道の段差の形状



写真5 歩道の修景パターン（波：県庁側）

また、視覚障害者用の誘導用ブロックについては、弱視の方にも配慮することとし、ベースとなる白色の御影石に対し、同一の質感である緑色の御影石を使用することにより輝度比を高め、際立たせる工夫を行った。

（3）バスベいの整備

国際通りについては、歩車道の段差を5cmとしていることから、「国際通り線整備計画協議会」の中で、バスの乗降する際の段差が約30cm程度あり、高齢者等に対してはきつすぎるとの意見が示された。

つまり、バスの乗降については、歩道が高い方が容易であるが、一方、バスベイ箇所の歩道部分を高くすると、歩道の進行方向に段差を生じることとなる。また、一部乗降用の階段等の設置も検討されたが、歩行者に対しては障害物となることが懸念された。

そのため、歩道の高さは一定にすることとし、バスベイ箇所の幅員が3mあることから、歩道側へ勾配を付けることで、車道部のバスベイ箇所を下げることができ、バスの乗降の際の段差の解消を図った。

当該バスベいの構造については、前衛的な取り組みとして、平成20年財団法人国土技術センター発行「道路の移動円滑化整備ガイドライン」で紹介されているところである。

（4）電線類地中化

電線共同溝には沖縄電力、NTT 他7社が入溝しているところであり、その構造については整備コストが安価で、沿道の商業店舗に配慮し施工が短期間で完成するC・C・BOXタイプを採用することとした。

ここで、C・C・BOXの可とう管の施工について、通常では管が多数となる場合の敷設は、蛇行防止の観点から一段毎に埋め戻しを行い、段数を上げていくこととなるが、国際通りの場合は時間



写真6 歩道の修景パターン（伝統柄：安里側）

また、歩道の修景を図る素材としては、琉球王国の時代から沖縄との絆の深い中国福建省産の御影石を使用することとし、色は、ベースを白色、模様を赤色を使用し、南国沖縄にふさわしい明るいパターンで構成した。



写真7 バスベいの構造

的な制約があることから、管枕で束ねることにより一括的な施工を可能とし、施工スピードを高めることとした。

当時、可とう管を束ねる管枕については、他に施工事例はないため、メーカーサイドで実証実験を行い、敷設及び埋め戻し等の一連の施工性や施工後の路面の不陸や陥没など無いか確認した上で採用に至ったところである。

しかし、整備にあたっては、難航を極めることとなる。

国際通りは沖縄県の観光スポットであることから、商店街の営業や沿道の交通に配慮することとし、工事は夜間23時から朝の6時まで行うこととしたため、日当たりの施工量が僅かとなり、工期が長期間に及んだ一因となっている。

また、施工については上下水道の移設が伴うため、移設を行いながら管を敷設するために夜間の施工はさらに難航するとともに、昼間は占用者との調整や沿道の住民対応に追われることとなった。

その中で、工事を進めるにあたっては、通り会との連携を密に行い、通り会を通じて事業内容の説明や工事内容の周知を図ったことから、個々としての要望は、その都度対応することとし、通り会の総意として理解は得られたものと考えている。

また、地域貢献の一環として週1回、金曜日の夜から土曜日の朝までの工事のあとは、沿線の清掃活動を行うなどの活動をしたことも通り会の理解を得られた要因と考えている。

(5) ポケットパークの整備

国際通りのポケットパークについては、那覇市策定の「那覇市中心市街地活性化基本計画（平成11年3月）」及び「那覇市都市計画マスタープラン（平成11年4月）」において国際通りの活性化策として位置づけられている。

ポケットパークの整備については、国際通りにおいてバス待ち客の影響により、一般歩行者の通行の障害となる箇所にて設けることとし、「歩行者滞留スペース」として拡幅範囲を都市計画決定したうえで、街路事業として「ポケットパーク」の整備を行うこととした。

また、整備内容については、学識経験者や通り会の代表者を交えた「国際通り線ポケットパーク勉強会」において、取り交わされた意見に基づき計画された。

その中で、ポケットパークは歩道の延長であることから、歩道と同様に福建省産の白と赤の御影石を使用することとし、舗装デザインは歩道と整合が取れたものとする事とした。

ここで、最も「人の溜まりが」が期待される国際通り中央部のポケットパークについては、多目的イベント型パークとして利用されることから、樹木による緑陰の創出を図ることとし、広場内にはイベントの支障となるような固定施設は設置しないこととした。

なお、那覇市は当該箇所に観光リゾート地のイメージアップと情報発信力の強化を図ることを目的として、平成25年度にポケットパーク前面に大型スクリーンの設置を行っているところである。



写真8 C・C・BOXの施工状況



写真9 ポケットパークの状況

5. 整備後の状況

歩道が拡張され、電線が撤去されたことから歩道における開放感は著しく、また植栽については、ヤエヤマヤシが立ち並び、沿道の商店街は個性豊かな品揃えがあることから、異国情緒あふれ活気に満ちた街並みに変貌を遂げている。

活気ある街並みは、夜も勢いを失せることなく、照明灯に照らされた歩道には、絶え間なく観光客は往来し、商店街も夜10時頃まで営業を続ける。

週末になるとトランジットモールが実施され、多くの来場者とともに、ポケットパークでは歌や踊りなどのストリートパフォーマンスが繰り広げられ、盛りだくさんの演出が楽しめるほか、通りにはオープンカフェが設けられ、気軽に休みながら沿道の賑わいを感じることができる。

また、沿道においては、国際通りの整備と合わせ、安里地区市街地再開発整備が平成23年度に完成し、国際通りに面した箇所は空間が大きく取られるとともに、モノレール牧志駅が自由通路により連結されアクセス性も一段と向上しているところである。



写真10 施工完了後の状況



写真11 モノレールとの連結

6. 各種イベント

国際通りは整備が完成した現在、多くのイベントが開催されている。

その中で、「一万人のエイサー踊り隊！」については、通り会や商店街が主体となり毎年8月の上旬の盛夏の頃に開催される。今年で21回目を迎えることとなるが、約30組の青年会や子供会が、国際通りの10箇所において演舞をする姿は、太鼓の音の迫力もあり、勇壮で華やかである。

また、沿道には演舞と見ようと人盛りにあふれ、近年は外国人の姿も多く見られる。



写真12 一万人のエイサー踊り隊！



写真13 那覇市による打ち水状況

このイベントを盛り上げるために、那覇市では沿道の美化と熱中症対策の一環として、歩道下に敷設している上水道の幹線から水を取水し打ち水を行い、沿道の埃を抑え、体感温度の低下を図っている。

また、平成27年3月25日から5日間開催された「沖縄国際映画祭」の際は、初日に国際通りの車道にレッドカーペットを敷き詰め、映画祭の出演者が登場するランウェイを設置した。車両から降りた出演者は沿道埋め尽くす観光客や映画ファンの歓声を浴びてランウェイを歩き、最終地点はポケットパークに設けられたひな壇にて出演者が一同に会することとなる。



写真14 沖縄国際映画祭式典状況



写真15 沖縄国際映画祭式典状況

この他にも、10月下旬から11月上旬に開催される首里城祭のメインイベントの「琉球王朝絵巻行列」や、12月上旬に開催される「那覇マラソン」のコースの一部になるなど、国際通りは各種イベントに活用されているところである。

7. おわりに

国際通りの街路事業を推進するにあたっては、沿道と地域との関わり合いが深くまた歴史があり、沿道の方々が強い絆で結ばれていることから、そのコミュニティを崩すことなく、多くの意見を反映できたことが成功の要因と考えている。

また、通り会の方々には、計画の策定から工事に至るまで理解を頂き、大変感謝しているところである。その中でも特に通り会を構成する4つの組織の代表者の方々には、電線類地中化に伴う工事の際に、沿道の商店街への説明や地上機器の設置に関する同意取り付けなどに協力を頂き、当該事業が滞りなく進捗できた最大の要因であり深く感謝したい。

また、電線類地中化に伴う電柱の抜柱の際には、近くの久茂地小学校の児童を中心として「電柱さんありがとう！」と題する劇も開催され、街路工事により便利になる期待と、これまで電力を供給してくれた電柱への感謝を劇にしてくれたことに、地域の感心の高さを知ることができ、また、少なからず事業者として喜びを感じた。

今後とも、国際通りにおいては、沿道の開発や街の発展に伴い街路等のインフラについて、新たな機能整備も必要となるであろう。その中で今回の様に地域と行政が一体となり、将来のあるべき姿を考えるのであれば、沿道の活気ある賑わいは持続・発展し、その名にふさわしい国際観光都市として役割を担う通りとなることを期待したいと思う。